（別記様式第１２号）（第３の８関係）

（南信州地域）

令和７年度　地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	参加型滞在拠点創出事業
事業主体 （連絡先）	売木村
事業区分	(8)その他地域の元気を生み出す地域づくりに資する事業
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,907,080　円 （うち支援金：　1,481,000　円）

事　業　内　容

本事業は、空き家を活用した滞在拠点の整備に向け、都市部と売木村を行き来する二地域居住の受け皿づくりを目的として実施した。都市部でのトークイベントやワークショップにより利用者視点での多様なアイデアを収集した。また、村内では古民家見学やDIY体験、地域住民との交流を通じて地域理解を深めた。さらに、参加者とともに滞在拠点のあり方や関わり方について検討を行い、計画の基礎となるビジョンを整理した。単なる施設整備にとどまらず、関係人口の創出と継続的な関係づくりを重視した取組となった。



【村を巡るワークショップ参加者】

事　業　効　果

① 都市部でのイベント参加者は65名であり、関係人口となり得る層の獲得につながった。売木村から直接情報発信できるネットワークの登録も78名あり、継続的に関係を持つ基盤が形成された。
② 古民家見学や地域住民との交流を通じて、空き家活用や外部人材との協働に対する理解が深まり、空き家を滞在拠点としての活用の可能性について前向きな認識が広がった。
③ ワークショップを通じて、地域との関わり方や滞在のあり方に関する具体的なニーズが整理され、利用者視点に基づく滞在拠点の方向性が明確となった。
④ DIY体験や共同作業を通じて関係性が深まることが確認された。また、都市部のワークショップ参加者においても、計画段階から主体的に関わりたい意向が確認された。これにより、関係づくりの手法および事業推進のプロセスとしての有効性が示された。

【目標・ねらい】

①強い関係人口・二地域居住希望者の創出
②空き家活用と滞在拠点への理解促進
③利用者視点による拠点像の明確化
④参加型手法による関係づくりの検証

※自己評価【　A　】

【理由】
ワークショップ等に関して目標以上の参加者を獲得し、本年度の取組を通じて継続的に関係を築く基盤が形成され、来年度以降の事業参加につながる見込みが得られた。企業との関係構築も進み、次年度における協業の可能性も見えている。

今後の取り組み

本事業を通じて、滞在拠点の整備にあたっては、ハード整備のみならず、関わり方やサービス（ソフト）、受入・運営の仕組み（制度）を一体的に整備する必要があることが明らかとなった。
来年度は、本年度に形成された関係人口とのネットワークを生かし、継続的な関係構築と関係の深化を図るとともに、拠点づくりに主体的に関わる人材の参画を促進する。また、企業との協業の可能性も踏まえ、運営体制の強化や持続可能な仕組みの構築を進める。
さらに、地域住民との対話や参画の機会を拡充し、外部人材と地域が協働して拠点づくりを進める体制の構築を目指す。
これらを踏まえ、関係づくり・運営体制の整備と並行して段階的に拠点整備を進め、持続的に利用される滞在拠点の実現につなげる。